

# モーツァルト室内管弦楽団 第156回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 156. Regulärkonzert

～クリスマスにお贈りするモーツァルト名曲集～

2013年12月21日(土)午後2時■いずみホール

Samstag, 21. Dezember, 2013 14Uhr Izumi Hall, Osaka

■主催:モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.jimdo.com/>

■協賛:いずみホール[一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

■マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

\*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。



モーツァルト室内管弦楽団 第156回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 156.Regulärkonzert

2013年12月21日(土)午後2時●いずみホール

Samstag, 21. Dezember, 2013 14Uhr Izumi Hall Osaka

～クリスマスにお贈りするモーツァルト名曲集～

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219 《トルコ風》

Konzert Nr.5 A-dur für Violine und Orchester KV219 „Türkisch“

I . Allegro aperto - Adagio - Allegro aperto

II . Adagio

III . Rondeau : Tempo di Menuetto

- Allegro - Tempo di Menuetto

ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

Konzert Nr.23 A-dur für Klavier und Orchester KV488

I . Allegro

II . Adagio

III . Allegro assai

\* \* \*

交響曲 第40番 短調 K.550

Sinfonie Nr.40 g-moll KV550

I . Molto Allegro

II . Andante

III . Menuetto : Allegretto

IV . Allegro assai

ヴァイオリン：佐野 智子 / Violine：Tomoko Sano

ピアノ：伊藤 恭子 / Klavier：Kyoko Ito

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester：Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター：釋 伸司 / Konzertmeister：Shinji Shaku

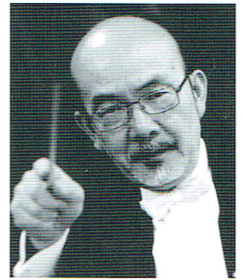
指揮：門 良一 / Dirigent：Ryoichi Kado



## 門 良一●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。1962年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



## 佐野智子●ヴァイオリン Tomoko Sano, Violin

大阪YMCAインターナショナル・ハイスクール卒業後、渡英。英国王立音楽院(RAM)にて Bachelor of music in performance 及び Postgraduate Diploma in Performance の両コースを修了。スカラシップ及び G.White Awardを受賞。在学中は校内外でソロや室内楽などの演奏活動を行う。また、Sir. コリン・デイヴィス他、著名指揮者のもとオーケストラの団員として活躍し、02年にはアシュケナージ指揮者フィルハーモニアの一員として演奏する。04年帰国。06、08、10年リサイタルを開催。06、09、11年モーツァルト室内管弦楽団、07年関西フィルハーモニー管弦楽団と協演。また、いずみホールにて「サマーミュージックフェスティバル大阪2009」、「デュオフェスティバル2013」に出演。これまでに、島 暢子、篠崎至佐子、辰巳明子、徳永二男、J.ハーヴィ、N.ミラーの各氏に師事。室内楽をH. デイヴィス、M. デュセック、A. ウェスト、S. ニッセル、H. ローデの各氏に師事。日本演奏連盟会員。



## 伊藤恭子●ピアノ Kyoko Ito, Piano

東京藝術大学付属音楽高校を経て、東京藝術大学音楽学部ピアノ科卒業。76年よりリサイタルを開催し、回を重ねる。79年にはワイマール夏期講習会でウェバジック教授の指導を受け、修了演奏会に出演。オーケストラとの共演は、テレマン室内管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、大阪シンフォニカー交響楽団(現 大阪交響楽団)、ブルガリアから来日したトレービン室内オーケストラ等と数多くのコンチェルトを演奏。最近では、10年金洪才指揮/関西フィルハーモニー管弦楽団とショパンのピアノ協奏曲第1番を協演する。また、元スロヴァーク・フィルコンサートマスター、ワルシャワ・フィルコンサートマスター、キエフ・リセンコ弦楽四重奏団とピアノ三重奏・四重奏で共演。その他、声楽リサイタルの伴奏やピアノアンサンブル等、幅広い活動を行っている。日高登美子、藤原千代子、田村宏の諸氏に師事。2013年3月まで大阪音楽大学教授として永年後進の指導にあたってきた。日本ピアノ教育連盟会員。



## モーツァルト室内管弦楽団●管弦楽 Mozart-Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年以上にわたり一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト

没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツアリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッセル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シテオペラとの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

### ●メンバー コンサートマスター 釋 伸司

|          |       |       |        |           |             |
|----------|-------|-------|--------|-----------|-------------|
| 第1ヴァイオリン | 釋 伸司  | 川島多美子 | チェロ    | 日野 俊介     | 棚橋 法子       |
|          | 本多 智子 | 田原口安代 |        | 石 豊久      | クラリネット 高橋 博 |
|          | 松本 紗希 | 幣 晴代  |        | 野田 祐子     | 門 小夜子       |
|          | 北村 奈美 | 池内 美紀 |        | D.Fischer | ファゴット 佐伯 利之 |
|          | 森住 憲一 | 佐分利祐子 | コントラバス | 南出 信一     | 倉永 晴美       |
|          | 菊池 優理 | 白木原有子 |        | 北河 栄美     | ホルン 佐藤 明美   |
| 第2ヴァイオリン | 中川 敦史 | 酢谷 恭子 | フルート   | 大江 浩志     | 垣本奈緒子       |
|          | 増永 花恵 | 高野ちか子 | オーボエ   | 上品 絢香     |             |



## モーツァルトのイ長調

モーツァルトの用いた調の範囲は決して広くはない。他の作曲家と比べた場合、かなり狭いと言ったほうがいだろう。彼の作品ではシャープもフラットも3つまでの調が大半で、4つとなると俄然少なくなる。モーツァルトはしかし、その狭い範囲内でそれぞれの調の個性を非常に重要視した。調の個性というのが何に由来するかなのだが、それはオーケストラで使われる楽器で考えるとわかりやすい。オーケストラにおける主たる楽器で最も数の多いのはヴァイオリンである。ヴァイオリンには4本の弦があり、低い方からG、D、A、E(ソ、レ、ラ、ミ)に調律されている。一般に弦楽器では弦を指で押さえない開放弦のときに響きが最も大きく明るくなる。だから開放弦の音を多く使う調が明快な音色を生み出すのである。ニ長調はDを主音(ド)、Aを属音(ソ)にしており、一番転調しやすい属調(5度上の調)のイ長調ではAが主音、Eが属音であり、次に転調しやすい下屬調(5度下の調)のト長調ではGが主音、Dが属音であるので、ニ長調が最も明快な音響を作ることのできる調になる。したがってイ長調やト長調はニ長調に次いで明るい性格の調ということになる。これらの調がヴァイオリンという楽器を最もよく鳴らすことができる調なので、モーツァルトの5つあるヴァイオリン協奏曲のうち2曲がニ長調、あと1曲ずつがト長調とイ長調である。他の作曲家の有名なヴァイオリン協奏曲を見ても、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーはすべてニ長調である。これらの調以外の調では開放弦の音が少なくなるので、音色は柔らかく多少曇ったものになり内面的な表現に適するといえよう。

話は変わるが、1991年のモーツァルト没後200年の折、NHKが特集番組でモーツァルトの名曲トップ20の投票を行ったことがあった。その20曲の中にイ長調の曲が4曲もあるというので、当時私が受け持っていたNHK大阪文化センターの「モーツァルトを聴く」という講座のある受講生の方がそのわけを説明してほしいと言われた。その4曲とは本日のプログラムにあるヴァイオリン協奏曲 第5番、ピアノ協奏曲 第23番、それにクラリネット五重奏曲とクラリネット協奏曲である。「なぜイ長調の曲が多いのか」という質問である。その折私が絞り出した答えは次のようなものだったと記憶する。モーツァルトの音楽の愛好者はベートーヴェンのそれと違って普遍的ではなくどちらかといえ

ばマニアックである(「モーツァルトを聴く」という講座があること自体その証拠であろう)。イ長調は響きが明るくて、モーツァルトが本音を語るのに最も適した調であると思う。イ長調の作品を聴くと、モーツァルト自身が目の前にいて自分に個人的にじかに語りかけてくるような気がする。これがマニアックなモーツァルト愛好者に人気がある理由ではないか、と。実はイ長調の作品はモーツァルトにはそう多くはなくむしろ少ない部類に入る。イ長調の名曲には上に挙げた以外にも交響曲 第29番や弦楽四重奏曲 K.464があり、どちらもモーツァルトが本音で語りかけてくる感じがする。

## モーツァルトのト短調

ト短調はモーツァルトの「宿命の調」と言われている。モーツァルトの60曲はあると思われる交響曲の中で、短調の曲はただ2つしかなく、その2つともがト短調であるのと、他にもいくつかあるト短調の作品がいずれもただ事でない雰囲気を持っているからであろう。しかし何といってもこの40番シンフォニーの存在が大きい。暗く哀しい音楽であり、モーツァルトの魂の奥底を垣間見せるような痛切な表現を持っている。ロマン派にあるような物語性のある悲劇的表現でなく、何か絶対的な哀しみ、人間の根源的な哀愁感が描かれている。弦楽五重奏曲 K.516やピアノ四重奏曲 K.478においてもそれが言えると思う。他には《魔笛》のパミーナのアリア、《ハフナー・セレナーデ》第3楽章メヌエットや歌付き芝居の《劇場支配人》のヘルツ夫人のアリアなどがト短調の名曲である。

## ♪ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219

1775年はモーツァルトのヴァイオリン協奏曲の年と言われる。全5曲のうち4曲がこの年に作曲されているからである。モーツァルトの父親は当時ヨーロッパ随一のヴァイオリン教育家であったから、モーツァルトは幼い頃からヴァイオリンをよくし、10代でザルツブルク宮廷楽団のコンサートマスターになっている。5曲の協奏曲も自ら演奏するためのものであったろう。第5番は最も規模が大きく、前4曲にはない新しい工夫がある。第1楽章のオーケストラ提示部の後、テンポがアダージョになり独奏ヴァイオリンが非常にオペラ的な登場の仕方をし、はじめのテンポに戻って華々しく技巧的曲想を展開していく。第2楽



章もかなり重厚な音楽である。第3楽章はメヌエットのテンポであるが中間にこの曲の《トルコ風》の別名の由来となったトルコ行進曲が登場して異国情緒を醸し出す。全曲が極めて華麗な作品である。

### ♪ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

1786年、大作オペラ《フィガロの結婚》の作曲の合間に作られた作品。この時期にあつて前後の作品に見られる大胆な形式や表現は影を潜め、オーソドックスな構造の明るい雰囲気での協奏曲ではあるが、オーケストラにオーボエの代わりに当時はまだ新しかったクラリネットが使われている点がユニークである。極めて細やかな表現に富み、「モーツァルトの光と影」と言われる微妙な陰影を持ったパッセージが多い名曲である。特に第2楽章は短調で独特の哀愁感が歌い上げられており、愛好者が多い。全23曲のピアノ協奏曲のうち、第20番ニ短調と人気を二分する作品となっている。

### ♪交響曲 第40番 ト短調 K.550

1788年の夏のわずか3ヶ月ほどの期間に作られたいわゆる〈3大交響曲〉(第39～41番)は、1785～1786年に作曲されたハイドンの6曲からなる〈パリ交響曲〉(第82～87番)がそのモデルであるとみなされている。〈3大交響曲〉(第39番 変ホ長調、第40番 ト短調、第41番 ハ長調《ジュピター》)の調性が〈パリ交響曲〉の最初の3曲(第82番 ハ長調《熊》、第83番 ト短調《めんどり》、第84番 変ホ長調)と一致するからである。弦楽四重奏曲における〈ハイドン・セット〉にならぶいわば交響曲版〈ハイドン・セット〉といえよう。交響曲における先進作曲家ハイドンに刺激を受けながらも、モーツァルトは決して革命家ではなく、既成のさまざまな様式を巧妙に組み合わせ、練り上げ、細部に至るまで彫琢を施してみごとに統一的な作品に仕上げるタイプの天才であり、本質的には保守主義者であった。だが、この第40番にはそういった見方を吹き飛ばすようなものすごいものがある。第4楽章の展開部ではほぼ2小節ごとに転調を繰り返していき、ほとんど調性音楽の限界かと思わせる「危険な」音楽が書かれている。しかし聴き手はこの部分を聴いてその「危険さ」を感じることはプロフェッショナル作曲家としての矜持があるのである。

## 《モーツァルト室内管弦楽団を応援しよう!》

「モーツァルト室内管弦楽団を応援しよう!」キャンペーンに対し、下記の方々からご賛同をいただきました。お名前を記載させていただき、厚く御礼申し上げる次第です。(敬称略)

### ＜ご寄付をいただいた方＞

稲垣千代子/田中 徹/津田 暁子/河野 幹雄/  
金定 秀光/碓井 昭彦/碓井みち子/阿部由美子/  
笠松 規子/小柳 陽一/渡辺 優子/三谷 郁子/  
祐野 周三/谷口 安平/祐野 尚子/隅谷 正一/  
橋本 靖昭/石光 正男/中東富佐子/萬野 尊昭/  
西川 保子/深田 晴世/中村智代子/高松 孝之/  
島村 猛

### ＜新しく後援会にご入会いただいた方＞

法人会員:三孝会/上野製菓/三井住友銀行  
個人会員:乾 賢次/井狩 彌介/井狩 啓子/  
西川 文子/原田 隆宏/村上小夜子/増見 達生/  
東 里香/西村 芳穂/関 英夫/曾我見郁夫/  
筑瀬 重喜/葎阪満里子/笠松 規子/八幡 順/  
近藤 康博/松江 忠二/阪本 延夫/宇民 正/  
高松 孝之/後藤 喬雄/匿名希望1名

### ＜後援会会費を増額していただいた方＞

法人会員:三井住友カード/新日鐵住金/林六/  
荒川化学  
個人会員:能田 久美

## ＜次回予告＞

### 第157回定期演奏会

＜ニューイヤー・コンサート・モーツァルト名曲集＞

2014年1月19日(日)14時●いづみホール

指揮:門 良一 ピアノ:池田洋子  
モーツァルト

交響曲第35番ニ長調K.385《ハフナー》

ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466

交響曲第41番ハ長調K.551《ジュピター》

### 第158回定期演奏会

＜ベートーヴェン・シリーズ＞その4

2014年5月31日(土)14時●いづみホール

指揮:門 良一 ピアノ:三木康子  
ヴァイオリン:ギオルギ・バブアゼ チェロ:林 裕

ベートーヴェン

《レオノーレ》序曲 第3番 作品72b

ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲

ハ長調 作品56

交響曲 第5番 ハ短調 作品67《運命》

会長代理 谷口 安平 (京都大学名誉教授)

理事 吉野 泰生 (住友生命保険相互会社名誉顧問)

監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)

顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)

(50音順)

《法人会員》(50音順)

|        |               |                |         |
|--------|---------------|----------------|---------|
| 荒川化学工業 | 三孝会           | ダイキン工業         | 丸山興産    |
| 上野製薬   | サントリーホールディングス | 大同ケルエンエンジニアリング | 三井住友カード |
| 関西電力   | 新日鐵住金         | 高松建設           | 三井住友銀行  |
| きんでん   | 住友精密工業        | 中西金属工業         |         |
| 小林製薬   | 住友生命保険        | 林福山製紙          |         |
| 阪野商店   | 住友倉庫          |                |         |

《個人会員》(入会順・敬称略)

|       |       |       |      |       |
|-------|-------|-------|------|-------|
| 深野晴世  | 宮祐井茂治 | 小田柳陽一 | 大原典子 | 森廣原隆繁 |
| 河野幹雄  | 祐野尚子  | 田中四朗  | 伊藤藤久 | 廣飯塚雅  |
| 河野奈津子 | 定秀光   | 村原恭も  | 山速天橋 | 飯岡岡友  |
| 福岡隆子  | 金定嘉也  | 原井田谷立 | 速天橋梁 | 岡岡谷田  |
| 梅原哲也  | 中嶋正   | 松得菱足  | 天橋梁松 | 長前富村  |
| 石本三也  | 福菅日高  | 松菱足東  | 橋梁松山 | 村伊乾西  |
| 田村克己  | 藤原啓和  | 竹豊飯宮  | 山谷下野 | 村伊乾西  |
| 梅村博也  | 馬野田名  | 田田井脇  | 野木田西 | 伊乾西原  |
| 屋良正和  | 阪和桑石  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 國友垣千代 | 桑石高川  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 稲浮俊弘  | 高川中中  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 桑山郁一郎 | 中中豊切  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 三浦信敬  | 切中三   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 水島優美  | 三内神   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 渡辺美津子 | 杉島井田  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 平安川洋  | 中中豊切  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 安藤邦太  | 切中三   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 橋本由美子 | 三内神   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 阿部泰幸  | 杉島井田  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 中本幸忠  | 中中豊切  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 村川桂昭  | 切中三   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 笹林井重  | 三内神   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 緒井井田  | 杉島井田  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 確井井田  | 中中豊切  | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 確井井田  | 切中三   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |
| 長岸能   | 三内神   | 田田井脇  | 野木田西 | 村伊乾西  |

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

- ・ご同伴者は10%割引となります。
- ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
- ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
- ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。